

野田市老人ホーム及び老人デイサービスセンター  
指定管理者候補者選定委員会（フォローアップ）会議録概要

開催日時 平成29年2月16日（木）午後4時から午後5時まで  
開催場所 市役所 5階 512会議室  
出席委員 副市長（委員長）、総務部長（副委員長）、企画財政部長、  
行政管理課長、管財課長、高齢者支援課長  
欠席委員 無し  
事務局 高齢者支援課、行政管理課

1 開会

<委員長より開会の言葉>

2 議事

① 複合老人ホーム野田市楽寿園

平成28年度（4月～12月）複合老人ホーム野田市楽寿園業務報告書及び  
平成29年度複合老人ホーム野田市楽寿園業務計画書の審査について

<事務局より平成28年度（4月～12月）複合老人ホーム野田市楽寿園業務  
報告書及び平成29年度複合老人ホーム野田市楽寿園業務計画書について  
一括して説明>

<審議の概要>

○業務報告書2ページ項番9の地元住民の雇用への配慮について、地元雇用  
率はいくつか。

→全職員20人中、野田市在住が19人、柏市在住が1人で、地元雇用率は9  
5%となる。

○業務報告書2ページ項番6③の防犯及び防災のための方策について、夜間の  
職員体制はどうなっているか。

→夜間は特養夜勤1名、養護宿直1名の計2名体制である。

○職員の配置基準上、2名で問題ないのか。

→問題ない。配置基準では特養入所者が15人以下なら、特養の夜勤は1名  
となっている。実際は、養護の宿直1名と共に対応している。

○業務報告書5ページの人員配置について、10月に1名減となっているが、職員配置に支障はなかったか。

→職員及び非常勤全職員の勤務を調整し、欠員1名分をカバーするシフトにより対応していることから、支障は生じていない。

○業務計画書1ページ2②のサービスの改善及び向上、質の確保のための方策について、職員のスキルアップのため資格取得の奨励制度はあるか。

→資格取得へ向けた費用補助制度があり、研修費や講習会費、交通費等を法人で負担している。

○業務計画書11ページ及び12ページの人件費の常勤職員について、兼務職員の負担割合変更は、どのような背景から行うことになったのか。

→特別養護老人ホームの介護報酬が、処遇改善加算や看護体制加算の算定により大きく増収が見込まれ、特養の支出負担増が可能となったため、兼務職員人件費の按分率を、特養5、養護95から特養18、養護82の床面積按分に変更したものである。

○業務計画書11ページ及び12ページの収入について、29年度予算額は28年度と比較して養護老人ホームが126万6千円の減、特別養護老人ホームが350万3千円の増となっている理由は何か。

→養護の収入減は、入居者を35人として算出していること及び入所者扶助費の減による指定管理料の減額のためとなる。特養の収入増は、看護体制加算の算定や処遇改善加算の増額により、介護報酬が増額するためとなる。

○28年度は入所者を何人として算出していたのか。

→40人である。

○特養の収入増は、看護体制加算の算定と処遇改善加算の増額とのことだが、支出では人件費が増えたということか。

→看護体制加算の算定と処遇改善加算の増額を理由として、人件費は増えていない。この処遇改善加算は職員に関するものではなく、入所者に関するものとなる。日常生活継続支援加算ともいうが、要介護度4や5の入所者がいたり、介護福祉士が多くいたりすると、多床室で1日36単位の介護報酬が加算されるものである。

<審議の結果>

平成28年度(4月～12月)複合老人ホーム野田市楽寿園業務報告書及び平成29年度複合老人ホーム野田市楽寿園業務計画書について承認

② 野田市岩木小学校老人デイサービスセンター

平成28年度(4月～12月)野田市岩木小学校老人デイサービスセンター業務報告書及び平成29年度野田市岩木小学校老人デイサービスセンター業務計画書の審査について

<事務局より平成28年度(4月～12月)野田市岩木小学校老人デイサービスセンター業務報告書及び平成29年度野田市岩木小学校老人デイサービスセンター業務計画書について一括して説明>

<審議の概要>

○前年度の収支の差額はいくらか。

→63万8427円の黒字となる。

○利用料金制に変更した、平成27年度から介護報酬が引き下げられたが、次年度は大丈夫なのか。

→今年度は、新規利用者の入りが少なかったが、11月から1月までに7名が増え、その間1名が辞めたが、徐々に回復傾向にあることから、大丈夫だとみている。

○業務報告書1ページ②の生活指導や適切な日常動作訓練等の方策について、「ADLのみを意識するのではなく、取り組むための意欲を意識し、QOL向上からADL維持向上に繋げることを意識しています」とあるが、具体的に何をしているのか。

→機能訓練やレクを実施する際には、身体機能・脳機能向上という目的があり、それを実現化するためには継続性が必要となる。本来なら、デイサービス利用日以外でも自宅で実施していただくのが一番理想的だが、どの方も「デイサービス」という環境を活用しないと、なかなか自主的活動は難しいのが現状である。そうすると、まずは必然的に「継続的にデイサービスを利用する」という目標が設定され、継続的に利用するためには、楽しい環境で、自ら率先して行うことが必要となる。嫌々取り組む機能訓練やレクでは効果が発揮できないという理由もある。機能向上の順序として、機能回復から精神的安定ではなく、精神的安定を求め、気力向上を図ったうえで、機能回復に繋げて

いくという考えで取り組んでいる。

○「ADL」とは何を意味するのか。

→「Activities of Daily Living」の略で、人が日常生活において繰り返す基本的かつ具体的な活動のことである。

○業務報告書11ページの利用件数について、介護保険対象利用者の今後の見込はどうか。

→1月の介護保険対象利用者の実績件数は455人となり、報告書作成時の見込を6人上回っている。1月及び2月は稼働日数が24日と少ないため、大きな伸びにはならないが、12月と1月に新規利用者が合計で7人増えたことにより、3月の利用者を467人と見込んでいる。

○業務報告書14ページの収支差額について、収支差額の補てん財源は何か。

→法人会計からの補てんとなる。

○業務計画書6ページの委託実施計画について、利用者が増加する計画となっているが、給食業務の委託金額は減額となっている理由は何か。

→現在、野田市岩木小学校老人デイサービスセンターでは、独自のメニューで対応しているが、次年度以降は法人で各施設分の食材を一括して仕入れることとし、栄養士についても法人職員で対応し、経費の削減を図るものである。給食の委託金額は法人全体で按分して算出している。

<審議の結果>

平成28年度(4月～12月)野田市岩木小学校老人デイサービスセンター業務報告書及び平成29年度野田市岩木小学校老人デイサービスセンター業務計画書について承認

### 3 閉会